

令和3年度豊田市地域自立支援協議会 第2回 全体会 次第

日時：令和4年3月11日（金）

午前10時から

場所：ZOOMによるオンライン開催

1 あいさつ

豊田市地域自立支援協議会 会長 平野 隆之

2 議題

(1) 各分会・WG等の総括及び次年度の体制

資料1

- 医療的ケア児者等支援部会
- 防災啓発WG
- 各ブロック
- 課題整理部会
- 担当者会議
- 豊田市地域自立支援協議会の新体制

(2) 第5次豊田市障がい者ライフサポートプランの進捗について

【新規かつ重点施策】

- 施策分野2 重層的支援体制の推進
- 施策分野3 相互理解の促進・意思疎通の円滑化
- 施策分野4 重度障がい者の受入れ促進
- 施策分野5 精神障がい者の地域包括ケアシステムの構築

資料2-1

資料2-2

資料2-3

資料2-4

豊田市地域自立支援協議会全体会 委員名簿

(任期：令和3年4月1日から令和6年3月31日まで)

委員

No.	分類	所属	氏名 (◎会長、○副会長)
1	学識経験者	日本福祉大学	◎ 平野 隆之
2	障がい者相談員		那須 江身子
3	当事者団体	一般社団法人豊田市身障協会	三宅 やすよ
4	当事者団体	社会福祉法人豊田市育成会	大谷 忠幸
5	当事者団体	豊田地域精神障がい者家族会 あけほの会	河田 佐津紀
6	地域支援者	豊田市民生委員児童委員協議会	神野 柱一
7	雇用関係機関	豊田商工会議所	小田 康夫
8	雇用関係機関	大豊工業株式会社	稲垣 徹
9	雇用関係機関	トヨタグループ株式会社	有村 秀一
10	就労支援機関	豊田公共職業安定所	近藤 健一郎
11	相談支援事業者	社会福祉法人無門福祉会 むもん生活支援センター	○ 阪田 征彦
12	相談支援事業者	社会福祉法人とよた光の里 障がい者支援センターひかりの丘	森下 尚志
13	相談支援事業者	社会福祉法人豊田市社会福祉協議会 地域福祉推進室	鈴木 雅樹
14	相談支援事業者	社会福祉法人豊田市福祉事業団 豊田市こども発達センター	神谷 真巳
15	相談支援事業者	社会福祉法人豊田市福祉事業団 障がい者就労・生活支援センター	西村 多恵
16	教育関係機関	豊田市立豊田特別支援学校	小寺 直樹
17	教育関係機関	愛知県立豊田高等特別支援学校	辻 望美
18	教育関係機関	愛知県立三好特別支援学校	井上 亘
19	教育関係機関	豊田市青少年相談センター	山上 裕司
20	保健、医療機関	医療法人豊和会 南豊田病院	成瀬 智
21	行政機関	愛知県豊田加茂福祉相談センター	柴田 直之
22	行政機関	豊田市社会福祉事務所	梅田 幸延

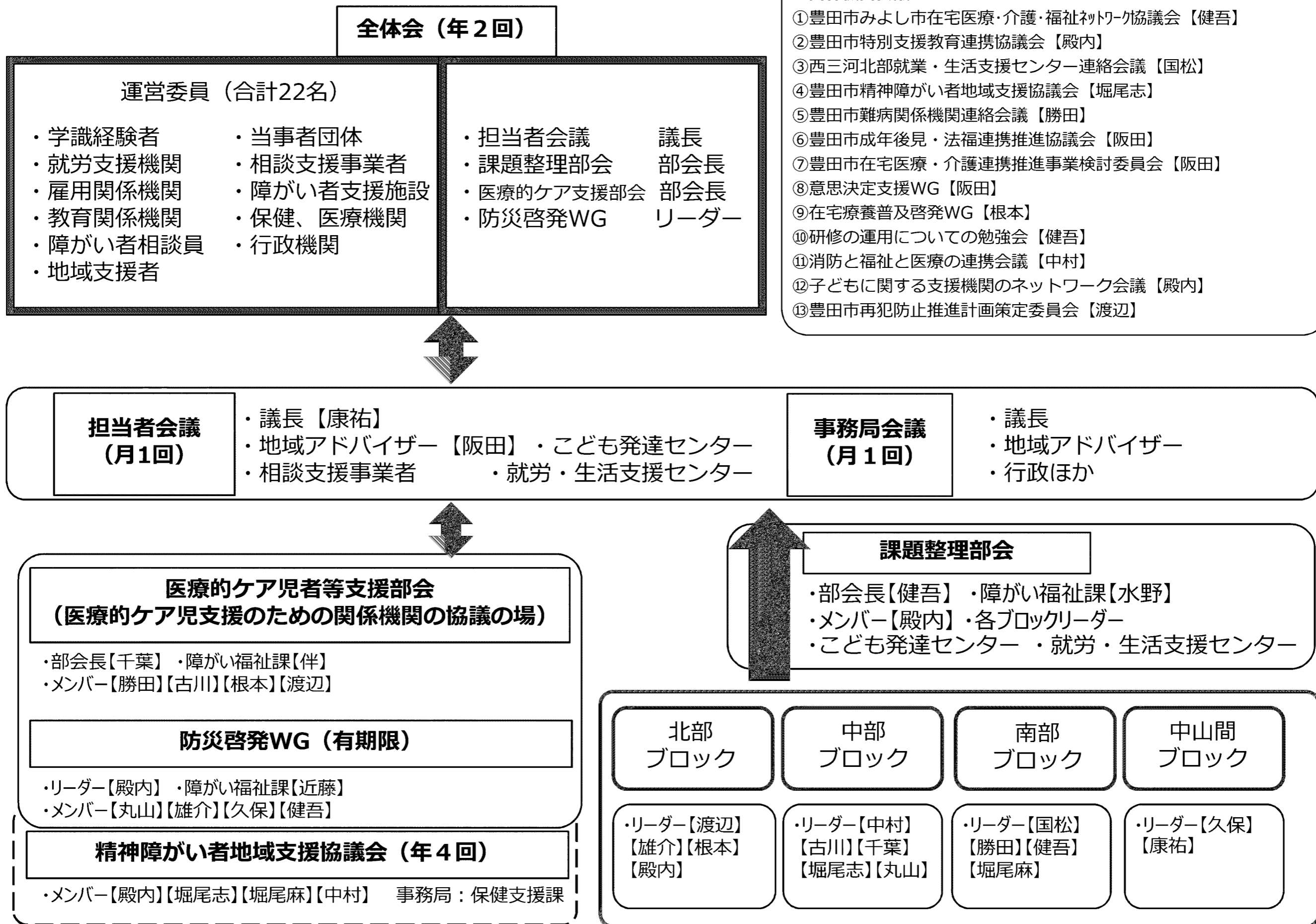
担当者会議・部会・WG

No.	分類	所属	氏名
1	担当者会議議長	障がい者相談支援事業所 足助まめだ館	鈴木 康祐
2	課題整理部会長	障がい者相談支援事業所 福祉センター	鈴木 健吾
3	医療的ケア児者等支援部会長	障がい者相談支援事業所 ON	千葉 晃嗣
4	防災啓発WGリーダー	障がい者相談支援事業所 むもん生活支援センター	殿内 勝夫

ブロックリーダー（オブザーバー）

No.	分類	所属	氏名
1	北部ブロック	障がい者相談支援事業所 光の家	渡辺 裕矢
2	中部ブロック	障がい者相談支援事業所 福祉センター	中村 結香
3	南部ブロック	障がい者相談支援事業所 ハートランド	国松 佐知
4	中山間ブロック	障がい者相談支援事業所 足助まめだ館	久保 直子

令和3年度 豊田市地域自立支援協議会の体制



令和3年度 医療的ケア児者等支援部会 事業計画書兼実績報告書

目的	医療的ケアが必要な障がい児者・ご家族が住み慣れた地域で安心して生活をおくることが できるシステムを考え、福祉や医療による支援の充実に繋げる。
目標	福祉事業所・医療機関等で働く医療職の負担と不安を軽減し、継続的に働くことができる仕 組みを構築する。
取組①	部会及びコア会議 各取組の情報共有及び検討をおこなう。また、残された課題の整理を行い、取組に向けた準 備を行う（取り組めるものは今年度からでも行っていく）。
取組②	医療職対象の研修会の実施 福祉事業所及び医療型短期入所等実施病院で勤務する医療職を対象に研修会を実施する。ま た、共通課題を中心に意見交換も行う。
取組③	

総括	昨年度開催することができなかった研修会だが、今年度はオンラインという形で開催するこ とができた。また情報ガイドについては、対象者や内容を精査し、より見やすいものにして いくための取組ができた。
今後の方向 性	研修会の開催や情報ガイドの更新は引き続き取り組んでいくとともに、それ以外の課題にも 取り組んでいく。

①自己評価	成果と課題
○	情報ガイドの更新は予定通りおこなうことができたが、それ以外の課題については、本格的 に取り組むことができなかった。次年度に向けて少しでも準備していきたい。
②自己評価	成果と課題
◎	前回より多くの参加者があり、また多職種の方の参加や研修の内容も良く、満足度も高かつ た。さらに研修の目的や参加対象者等を検討していきたい。【詳細は別紙参照】
③自己評価	成果と課題

自己評価 ◎期待を上回る ○期待どおり △期待をやや下回る ×期待を下回る

■スケジュール・実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組①	予定		(部会) 情報共有 事業計画書作成 役割決定	(コア会議) 課題解決に向けて 看護学校との連携や 勤ける医ケア児への 支援等(テーマは変 更の可能性あり)	(部会) 情報共有	(コア会議) 課題解決に向けて 看護学校との連携や 勤ける医ケア児への 支援等(テーマは変 更の可能性あり) ・情報ガイド更新	(部会) 情報共有	(コア会議) 課題解決に向けて 看護学校との連携や 勤ける医ケア児への 支援等(テーマは変 更の可能性あり) ・情報ガイド更新	(部会) 情報共有	(コア会議) 課題解決に向けて 看護学校との連携や 勤ける医ケア児への 支援等(テーマは変 更の可能性あり) ・情報ガイド更新	(部会) 情報共有 実績報告書作成	(コア会議) 課題の整理 事業計画書作成	(部会) 情報共有 事業計画書作成
	実績	15日 コア会議 昨年度からの引継等	20日 部会 情報共有 事業計画書作成 役割決定	4日 情報ガイドについて 打ち合わせ(みよし 市) 17日 コア会議 各取組進捗状況 その他の課題につ いて	15日 情報ガイドについて 打ち合わせ(みよし 市) 15日 部会 情報共有 各取組進捗状況	13日 情報ガイドについて 打ち合わせ 19日 コア会議 各取組進捗状況 その他の課題につ いて	7日 情報ガイドについて 打ち合わせ(みよし 市) 16日 部会 情報共有 各取組進捗状況	21日 コア会議 各取組進捗状況 その他の課題につ いて	5日 情報ガイドについて 打ち合わせ 22日 情報ガイドについて 打ち合わせ(みよし 市) 25日 部会 情報共有 各取組進捗状況	13日 情報ガイドについて 打ち合わせ(みよし 市) 16日 コア会議 各取組進捗状況 その他の課題につ いて	13日 情報ガイドについて 打ち合わせ(みよし 市) 20日 部会 情報共有 各取組進捗状況	17日 コア会議(予定)	17日 部会(予定)
取組②	予定			研修会内容検討	関係機関への聞き取 り等	関係機関への協力依 頼	研修会の打ち合わ せ・準備等	研修会開催・1	反省等	研修会の打ち合わ せ・準備等	研修会開催・2		反省・次年度に向け て
	実績			11日 目的・内容の検討	1日 内容・講師の検討	24日 講師との打ち合わせ	※案内・アンケート 等の作成および配布	27日 打ち合わせ	8日 打ち合わせ 19日 研修会開催・1 参加者 64名 ※反省・次回に向け て	10日 研修会開催・2 参加者 33名 ※反省・次回に向け て	※アンケート集計 【別紙参照】		
備考欄													

メンバー	◎障がい者相談支援事業所ON(千葉)、障がい者相談支援事業所足助まめだ館(根本)、障がい者相談支援事業所オンリーワン(古川)、障がい者相談支援事業所光の家(渡辺) 障がい者相談支援事業所ひかりの丘(勝田) その他:暖、たよりん、たんぼぼ
------	---

1 目的

医療的ケアが必要な障がい児者・家族が住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるシステムを考え、福祉や医療による支援の充実につなげる。

2 実績(令和3年度)

○医療的ケアが必要な方とご家族のための情報ガイドの更新

<取組概要>

一昨年度作成した情報ガイドだが、より活用してもらえよう対象者を中心に聞き取りをおこない更新の準備をおこなった。(令和4年4月1日更新予定)
 主な対象者を未就学児に絞ることでスリム化をはかり、シンプルだが手に取りやすくかつ見やすいものにした。

○医療職ネットワーク研修の実施(オンライン開催)

<取組概要>

福祉事業所や医療機関で勤務する医療職の他、今年度は喀痰吸引等研修を受講したこども園の保育士も対象に研修会を実施し、医療的ケアのある重症心身障がい児者に対する支援方法の理解啓発を行った。

第1回医療職ネットワーク研修会(令和3年11月19日)

テーマ:てんかんの基礎知識

参加人数:64名(福祉事業所・医療機関・こども園の看護師、保育士など)

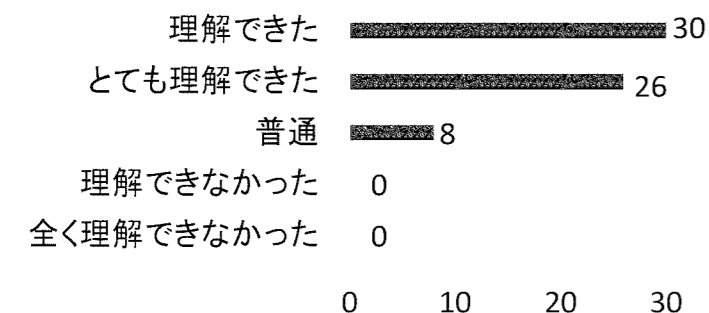
第2回医療職ネットワーク研修会(令和3年12月10日)

テーマ:重症心身障がいの方を支援する際の情報収集のポイント

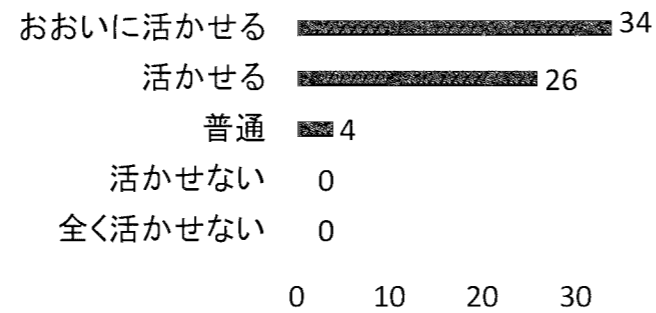
参加人数:33名(福祉事業所・医療機関・こども園の看護師、保育士など)

<アンケート結果>

てんかんについての理解度



業務への活用度

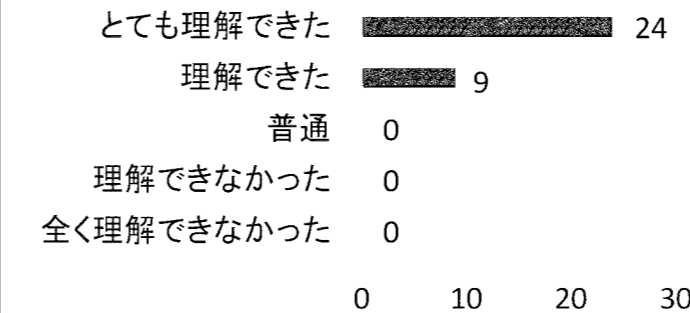


<意見(一部抜粋)>

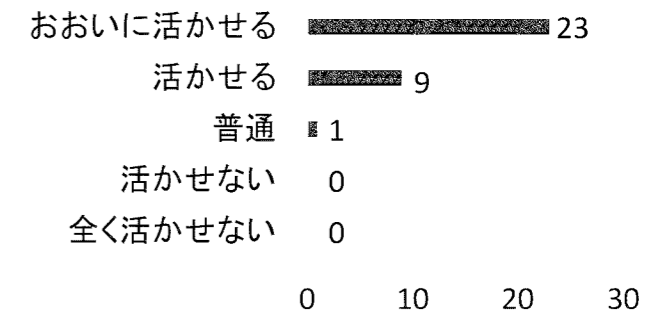
- 身近で特別な病気ではないことが分かった。
- 薬の選択は発作の種類によって違うこと、また、薬の副作用についても詳しく説明があり、理解が深まった。
- 実際にてんかん発作を見る機会が無かったが、動画と説明で発作の様子をイメージすることができた。
- 既往症にてんかんのある園児が入園しているので、保育士間で対応方法などを共有したいと思った。
- 発作の観察ポイントや救急車を呼ぶタイミングなど、具体的な説明で分かりやすい。
- 発作が起きている人がいた時に冷静になって対応できる。

<アンケート結果>

情報収集ポイントの理解度



業務への活用度



<意見(一部抜粋)>

- 支援方法が具体的で分かりやすかった。
- 根拠がしっかりとしており、丁寧な資料と動画での説明もあり理解が深まった。
- 今後、こども園に重心の子どもが入園してくると思うので、活かしてゆきたい。また、医療的ケアが必要な子どもの面談などにも活用したい。
- 側弯症で手術のために入院する子どもに対して、好きなポジションや更衣で気を付けること、コミュニケーションについて家族から情報を取る時に活用したい。
- 利用者の食事介助や寝て過ごす時など、しっかりとした根拠を持って食べやすさ、すごしやすさをイメージすることができるようになった。
- MSWとして、他職種との協議に活かしたいと思った。

<次年度に向けて>

今回はオンライン開催により、医療職同士の意見交換ができなかった。次年度はネットワーク構築のため、グループワーク等で、情報交換できるメニューを加えることも検討する。

令和3年度 防災啓発WG 事業計画書兼実績報告書

目的	災害時においても障がいのある人を取り残さない地域(行政区等または一次避難所単位)を作る
目標	災害時に暮らしている地域で障がいのある人を支援できるようにするとともに、障がいのある人が自ら災害について考えることが出来るようにする
取組①	障がいのある人が自ら災害について考え、地域の支援者に災害時に必要なプランが伝わるようにする ①-1 サービス等利用計画に災害時ケアプランが記載できるように書式を作成 ①-2 相談支援専門員向けの研修のあり方を検討する
取組②	災害時における当事者への支援について地域の方が理解できるようにする 令和2年度に作成した「ふくし防災すごろく」の活用と必要に応じて見直しを行う
取組③	障がい者が自ら避難や避難所運営などについて考えることが出来るようにする 地域の避難訓練への当事者参加と振り返りを行政と協働して行う(随時)
取組④	災害時の取組が地域で継続して行われるようにする 災害時の取組についてのサポート等を行政やブロックと協働して取り組む(随時)

総括	当事者自身がかわることの出来る災害時ケアプランについては、書式まで出来たため次年度での具体的な展開まで議論することが出来た。また、地域と連携して行う防災訓練等は新型コロナウイルス対策のため、計画通りとはならなかった。しかし、各自治区がコロナ禍においても防災訓練の必要性をふまえて防災学習会などが企画され、かつ自治区より協議会(ブロック)に対して協力の依頼があったことは大きな前進と考えられる。また、自治区への展開については新たな防災訓練の企画を提案できるようなチラシなども作成するなど次年度へ向けての具体的な検討も行うことが出来た
今後の方向性	災害時においても障がいのある人を取り残さない地域を作るためには、当事者、支援者、地域支援者(自治区等)がそれぞれの立場から、暮らしのあり方を考えることを継続する必要がある。また、一部自治区では連携して防災に取り組んでいるが、全体的には依然不十分な状態である。今後も、現在取り組んでいる内容を活かしながら、北部・南部ブロックでの取組を活かし全体的に取り組めるようにしていきたい。当事者が自ら考えることの出来る災害時ケアプランについても、まずは災害リスクの高い地域より取り組み全体的な取組としていきたい

①自己評価	○	成果と課題 書式について既存の書式を用いたものを作成、障がい福祉課とも検討した書式にて次年度より適用出来るよう周知の方法を検討した。しかし、制度上必須となっていないため、周知については協議会主催のオリエンテーション等を活用、障がい福祉課、福祉総合相談課にも協力してもらった。また、避難行動要支援者名簿との連携については、個人情報の取り扱いなどを踏まえて登録者に各簿登録時の記載内容を手元に残す工夫など福祉総合相談課での検討につながった
②自己評価	○	成果と課題 遊びについてのリーフレットと得点表を作成、すごろくと併せて配布できるようにした。新型コロナウイルス対策にて各自治区の防災訓練での展開はできなかったが、御船自治区では回覧板にて中田自治区ではイベントにて配布するなど地域住民への周知を図ることも出来た。また、自治区の防災訓練のメニューを提示するためのチラシ作成に差った
③自己評価	◎	成果と課題 新型コロナウイルスの影響にて、各自治区の防災訓練が中止となった。その中で、光の家の家避難訓練に自治区役員が見学、四郷小学校での避難所開設訓練に身体障がい、知的障がいの方が参加。その際には、自治区が自主的に受付の場所を別に設ける等の配慮が見られた。また、防災訓練企画実施において、四つの自治区より北部と南部ブロックに協力依頼があるなど、地域において当事者の存在について意識されるようになって来ていると感じた
④自己評価	○	成果と課題 NHKが作成したDVDを活用し、市内の事業所、包括などの職員にも地域との協働が大切であることを伝えた。実人数42名(延べ96名)が視聴し、感想についても地域とのつながりが大切であることを理解できたなどWGで伝えたいことが伝わった。また、コロナ禍での防災学習として亀首自治区でのDVD視聴機会を設けた。視聴の感想などをうけ、有効に活用するために、まずは自治区対象のチラシ作成を行う。CSWと連携して自治区への案内が出来れば検討した

自己評価 ◎期待を上回る ○期待どおり △期待をやや下回る ×期待を下回る

■スケジュール・実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組①-1	予定	30日(金) 前年度案の改定と試用について	28日(金) 改定案の試用の評価	25日(金) 担当者会議への提案と試用の依頼	30日(金)	27日(金) 担当者会議での試用評価について整理	24日(金) 担当者会議への最終版の提案	29日(金) 担当者会議の意見を受けての修正等	26日(金) 厚生労働省や豊田市での動きの確認	24日(金)	28日(金)	18日(金) 多世代参加支援プロジェクト 25日(金)
	実績	30日(金) 前年度案を参考にメンバーで試用(5月のWGにて協議)	コロナ感染症の緊急対応のため中止	25日(金) 試用の評価と障害福祉課により、書式案で問題ないとの意見 →7月に担当者会議で提案できるよう準備	30日(金) 8月の担当者会議での提案とポイント、9月の担当者会議での協議についてスケジュール等決定	25日(水) 担当者会議で試用の依頼	22日(水) 担当者会議にて試用の所感等報告を受け 24日(金) 担当者会議報告、様式案採用			24日(金) 3月18日(金)多世代参加支援プロジェクトへの参加など 28日(金) 2・3月のWGにおいて、具体的に作成対象とした地域などの検討を行う		全体会への報告
取組①-2	予定								26日(金) 厚生労働省や豊田市での動きの確認と、研修のあり方についての検討	24日(金) 次年度に向けた啓発について検討	25日(金)	25日(金)
	実績		コロナ感染症の緊急対応のため中止				24日(金) 様式は変更なく実施 R4.3に実施予定の事業所説明会にて周知を予定	29日(金) 努力義務のため作成はバザードマップ掲載地域から R4.3の事業所説明会での進め方について障がい福祉課にて検討	24日(金) 12月の会議にて障がい福祉課給付担当に追加してもらい周知とうについて検討となる	24日(金) 障がい福祉課給付担当より、まだ法定で定まっていなかったため、事業所説明会より、協議会主催のオリエンテーションでの周知が適当となる		全体会への報告
取組②	予定	30日(金) 活用案等の整理 活用時で使用する掲示物等の検討	28日(金) 活用リーフレット試作業							24日(金) 活用実績のまとめと今後の活用についての検討		
	実績	30日(金) 前年度整理したものの提示と検討	コロナ感染症の緊急対応のため中止	25日(金) 整理されたものをともに7月までに原案作成	19日(月)一次案検討 27日(火)最終案検討 30日(金)最終案承認	27(金) リーフレット案の修正、得点表の作成について	17日(金) 得点表原案検討 24日(金) 得点表原案をもとに最終案の検討	29日(金) 11月に御船自治区に回覧、反応について12月の防災WGで報告	1日(月) 新自治区、ふくし防災すごろく回覧	24日(金) DVD周知のチラシに合わせ すごろくも記載。防災訓練のメニューとして周知することとなる		全体会への報告
取組③	予定											
	実績	30日(金) 当事者参加と振り返りを行政と協働して行う事の確認	コロナ感染症の緊急対応のため中止	25日(金) 光の家原野氏より、高町と福祉村の訓練への協力依頼 (11月20日土曜日)	30日(金) 若林自治区(9月4日土曜日) 御船自治区(9月5日土曜日) 2自治区への協力依頼	27(金) 各自治区の実況確認			13日(土)大島自治区防災訓練 14日(日)中田自治区ふれあい祭り 20日(土)光の家避難訓練 21日(日)四郷小学校区避難所開設訓練	5日(日) 亀首自治区防災学習会 24日(金) 各訓練のまとめと、今後の当事者の参加方法等について検討 5日(日) 亀首自治区防災学習会 24日(金) 亀首自治区学習会報告		全体会への報告
取組④	予定											
	実績	30日(金) 行政やブロックと協働の確認 DVDの視聴機会をオンラインにて企画(各一巻を前後編に分けて行うこととなる)	コロナ感染症の緊急対応のため中止		1巻前編:5日(月)、7日(水)、8日(木) 1巻後編:14日(水)、15日(木)、19日(月) 2巻前編:26日(月)2回、29日(木)	2巻後編:2日(月)、4日(水)、5日(木) 27(金) 今後のDVD活用検討方法について	24日(金) NHKより追加でDVDを6枚受領(障がい福祉課)今後の活用方法の検討することとなる	22日(金) DVD活用方法検討 29日(金) DVDの周知方法と活用について検討について	17日(水) チラシ案検討 26日(金) 自治区向けの訓練案内チラシ作成することとなる	24日(金) 各訓練のまとめと、今後の協力方法について検討 17日(金) チラシ案の検討 24日(金) チラシの表面、裏面の案検討	28日(金) チラシの具体的な活用について(自治区展開) 28日(金) パソアアニメーションスタジオ作成のチラシに必要な事項を盛り込み2月完成予定となる連携実績のある対象自治区からCSWと連携し展開	
備考欄												

メンバー	障がい者相談支援事業所むもん生活支援センター(殿内)、障がい者相談支援事業所足助まめだ館(鈴木雄介)、障がい者相談支援事業所足助まめだ館(久保)、障がい者相談支援事業所福祉センター(鈴木健吾)、障がい者相談支援事業所つえの里(丸山)、地域アドバイザー(阪田)、障がい福祉課(近藤)、福祉総合相談課(加藤、柴田、森田)、P-BASE(栗本)、ユートピア若宮(木本)、当事者家族(藤原)
------	---

令和3年度 北部ブロック 事業計画書兼実績報告書

目的	障がい児者やその家族が、安心して生活できる地域づくりをする
目標	1、地域の困りごとを解決する 2、支援者のスキルアップを図る 3、緊急時における整備体制を行う
取組①	ブロック会議 事例検討や研修等から出た課題について集約と整理を行い、課題整理部会に提案する
取組②	サポート連絡会 I 研修を行う(支援の基本となる知識や姿勢を身に付ける) II 事例検討を行う(現場での支援力を高める、見立てを深めて事例を理解する力を高める) III 情報交換会を行う(多様な分野の情報を得ることでより幅広い視点で支援する力を高める)
取組③	ブロック独自の取組 I 消防との連携研修を実施する II 地域(井郷自主防災会等)と情報交換を行い防災訓練について企画への協力と参加し、結果や課題を自主防災会、福祉総合相談課、障がい福祉課と共有する



総括	コロナウイルスの流行もあったが、ZOOMの活用などで概ね予定通りに行うことができた。本人主体の支援を基本に研修を企画したことにより、事例検討会では本人に寄り添った事例提供や本人像を明確にとらえられるような質問がなされるようになり、参加者の意識の中に、本人主体、意思決定支援の考えが根付き質の向上が見られた。ブロック独自の取組として消防との連携、防災訓練を通じて地域との情報交換や障がい理解の周知・啓発につながる取組ができた
今後の方向性	今年度の内容を踏襲させながらステップアップした研修を企画する。また、事例検討会ではコアメンバーのスキルアップを図ることで、事例の主訴を理解し参加者に適切に伝える取り回し、板書のスキルを向上させることで、参加者には多様な視点で効果的な方策を考える力をつけ、事例提供者には新たな視点を身につけ、事例の理解が深まり適切なアセスメントができるような姿を目指し、支援員の質の底上げを図りたい

①自己評価	成果と課題 ○ ブロックメンバーの個別ケースで計6回的事例検討会にて質疑応答、アイデア出しをする中で残された課題を地域課題として課題整理部会に提案
②自己評価	成果と課題 ○ 本人主体・意思決定支援を軸として研修会を企画・運営した。2つの研修(意思決定支援に関する研修、SDG s から当事者主体の支援を考える研修)をそれぞれ連続研修として開催したことで、研修内容を深めることや効果の確認をすることができた。具体的な効果としては、事例検討会で参加者が支援者目線のサービスありきのアイデア出しから、本人が地域でどう暮らしたいのかに焦点をあてたアイデア出しへと変化が見られた また、コロナウイルスの流行によりオンラインでの研修も開催したが、参加者の移動の負担がない等の参加の促進につながる効果も見られた
③自己評価	成果と課題 ◎ 北部エリアの自治体の防災訓練に防災啓発WGと連携して協力・参加することで情報交換、障がい理解の周知・啓発を行う事ができた。また、コロナウイルスの感染拡大で中止になった自治体もあったが、事前の打ち合わせによる情報の共有や訓練の代わりに回覧板にて防災すごろくを回してもらうことで地域の方に啓発できた

自己評価 ◎期待を上回る ○期待どおり △期待をやや下回る ×期待を下回る

■スケジュール・実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組①	予定	14日 課題抽出 研修内容の検討	課題抽出	課題抽出	課題抽出	課題抽出	事例検討からの課題整理	課題抽出	研修・情報交換・防災訓練等からの課題整理	課題抽出	事例検討からの課題整理	課題抽出	
	実績		17日(月)19日的事例検討の打ち合わせ 27(木)6/2の研修の打ち合わせ	10日(木)16日的事例検討の打ち合わせ	12(月)21日的事例検討の打ち合わせ	12(月)18日的事例検討の打ち合わせ	北部ブロックの課題集約し課題整理部会へ提案	1日(金)6日の研修の打ち合わせ 18日(月)20日的事例検討の打ち合わせ	4日(木)10日の研修の打ち合わせ 20日(土)24日的事例検討の打ち合わせ				
取組②	予定	21日(水)PM ブロック会議 22日 ブロック共同オリエンテーション		2日(水)PM 意思決定支援に関する研修(講義) 講師:むもん福祉会(阪田氏)	7日(水)PM 意思決定支援に関する研修(グループワーク)		8日(水)PM SDG s に関する研修(講義) 講師:社会福祉法人さくらん会(繁原氏)	6日(水)PM SDG s に関する研修(講義) 講師:社会福祉法人さくらん会(繁原氏)	10日(水)PM SDG s に関する研修(講義) 連続研修 講師:社会福祉法人さくらん会(繁原氏)	15日(水)AM 子どもに関する関係機関連携研修→早期療育推進委員会との情報交換会へ変更	5日(水)PM 今年度の振り返り	4日(金)PM 次年度の取り組み内容の検討	2日(水)PM 次年度計画案についての検討
	実績			Zoomにて開催。参加者14名 阪田氏より意思決定支援の講義のあと、デモンストレーションを実施	サンアビリティーズにて開催。参加者26名 グループにより相談支援のロールプレイを実施		日程の都合つかず、10/6(水)へ変更	サンアビリティーズにて開催。参加者23名 カードゲームを使ってSDG s の理解、ワールドカフェにて議論を行い、当事者主体の支援の必要生を理解する	サンアビリティーズにて開催。参加者14名 SDG s の研修を踏まえてマングラチャートを活用して目指すべき相談員の目標設定を行う	早期療育推進委員会との情報交換会を実施。参加者10名	今年度の研修、事例検討内容を振り返り効果を確認		
取組③	予定		19日(水)AM 事例検討	16日(水)AM 事例検討	21日(水)AM 事例検討	18日(水)AM 事例検討	22日(水)AM 事例検討	20日(水)AM 事例検討	24日(水)AM 事例検討	1日(水)AM 事例検討	19日(水)AM 事例検討	16日(水)AM 次年度計画案についての検討	16日(水)AM 次年度計画案についての検討
	実績		Zoomにて開催。事例検討について殿内氏より講義、その後、光の家川上氏より事例紹介	サンアビリティーズにて開催。6月に紹介された事例の検討を行う(地域移行のケース)参加者14名	サンアビリティーズにて開催。足助まめだ館鈴木雄氏、久保氏の事例検討(事業所に行けなくなったケース)参加者10名	サンアビリティーズにて開催。社協CS稲見氏の事例検討を行う(8050の引きこもりのケース)参加者11名	Zoomにて開催。むもん殿内氏の事例検討を行う(高校卒業後についてのケース)参加者14名	光の家にて開催。足助まめだ館鈴木雄氏の事例検討を行う(高校卒業後についてのケース)参加者12名	サンアビリティーズにて開催。足助まめだ館根本氏の事例検討を行う(本人の本音が聞き出せていないケース)参加者10名	サンアビリティーズにて開催。今年度行われた事例検討の進捗確認を行う	サンアビリティーズにて開催。光の家渡辺の事例検討を行う(記憶障がいのある方への意思決定支援についてのケース)参加者9名		
取組③	予定			(5月~7月)		4日(水) 13:30~15:30	5日(土) 御船自治体防災訓練	9日(土) 乙部ヶ丘フェスタ	20日(土) 光の家避難訓練 21日(日) 天道・下古屋自治体避難所運営訓練	5日(日) 亀首自治体防災訓練			
	実績		13(木) 支援者名簿の周知のためCSと協力して自治体長との検討の場を設けることになる	避難行動要支援者名簿の自治体への周知・啓発		4日(水) 各自治体への防災訓練状況の確認と御船自治体の防災訓練参加への打ち合わせ	御船自治体防災訓練はコロナウイルス感染拡大のため中止。代わりに回覧板で防災すごろくを回す事で啓発に努めた	乙部ヶ丘フェスタはコロナウイルス感染拡大のため中止 7日(木) 消防と福祉と医療の合同研修に2名参加	光の家避難訓練に3名参加 天道・下古屋自治体避難所運営訓練に1名参加 12日(金) 藤岡・小原分署、藤岡、藤岡南、小原包括・ケアマネ合同研修に2名参加 25日(木) 消防と福祉と医療の合同研修に1名参加	亀首自治体防災訓練に4名参加			
備考欄	委託相談支援事業所によるコア会議は別途実施予定												
メンバー	◎障がい者相談支援事業所支援センター光の家(渡辺)、障がい者相談支援事業所むもん生活支援センター(殿内)、西三河北部地域アドバイザー(阪田)、障がい者相談支援事業所足助まめだ館(鈴木雄介、根本)												

令和3年度 中部ブロック 事業計画書兼実績報告書

目的	障がい児者や家族の困りごとを解決し、安心して暮らせる地域を目指す。
目標	①地域課題の集約と整理を行い、解決への提案を検討する。 ②相談支援技術のスキルアップを目指す。 ③事業所や関係機関との研修を開催し、連携強化を図る。 ④関係機関が開催する研修に参加し、顔の見える関係づくりを行う。
取組①	ブロック会議 ①中部ブロックの企画運営のための会議 ②個別事例等から出てきた課題を地域課題として、整理・明確化を行い、解決策の検討を行う。
取組②	サポート連絡会 ①野中式事例検討を用いて、相談支援技術のスキルアップを行っていく。 ②情報交換を行い、どんなことでも相談ができる場づくりを目指す。
取組③	独自の取組 事業所や関係機関との研修や事例検討会を開催し、お互いの役割や連携方法を学ぶ。

総括	昨年度に引き続き、コロナウィルスの感染拡大があったが、概ね計画どおり事業を実施することができている。また相談支援事業所に限らず、サービス提供事業所や関係機関等へ事例検討会や研修への参加を呼び掛けた事により、顔の見える関係づくりができ、実際のケース時にスムーズな連携強化に繋がっている。
今後の方向性	顔の見える関係づくりが強化できたことから、委託への相談がより増えていくと考えられる。その為、指定特定や事業所への助言やフォロー等の相談支援技術のスキルアップをさらに図りたい。

①自己評価	成果と課題 個別事例等から出てきた課題を地域課題として、整理・明確化を行い、具体的なアイデアを付加し課題整理部会へ提案を行う事ができた。次年度も引き続き実施していきたい。
②自己評価	成果と課題 昨年度はテーマに応じて関係する事業所や機関に参加を呼び掛けていたが、今年度はテーマに関係なく参加を呼び掛けたことにより、定期的な情報交換の場ができ相談しやすい関係性に繋がった。去年より多くの参加者があり、参加者からは自分の事業所では関わることのないケースを知ることができ勉強になった等の意見があり、満足度も高かった。
③自己評価	成果と課題 計画通りの開催ができた研修もあったが、未実施となった研修もあった。その代わりに、初めて、中部南部合同で共通課題を元に研修を開催した。しかし、研修開催にあたっては、開催目的や達成度が不透明となる傾向がややあった為、来年度以降は計画的な実施を考えていく。

自己評価 ◎期待を上回る ○期待どおり △期待をやや下回る ×期待を下回る

■スケジュール・実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組①	予定	7日(水) ブロック会議	12日(水) ブロック会議	2日(水) ブロック会議	7日(水) ブロック会議	4日(水) ブロック会議	1日(水) ブロック会議	6日(水) ブロック会議	10日(水) ブロック会議	1日(水) ブロック会議	5日(水) ブロック会議	2日(水) ブロック会議	2日(水) ブロック会議
	実績	7日(水) 今年度の取組確認	12日(水) 今年度の取組確認	2日(水) 取組②の準備 3日(木) 中部南部合同研修打合せ ・取組内容の検討	7日(水) 事例選出と取組②の準備	4日(水) 課題抽出と取組②の準備 10日(火) 中部南部合同研修打合せ ・取組内容の検討	1日(水) 課題抽出	6日(水) 課題抽出と取組②の準備	10日(水) 課題抽出と取組②準備	1日(水) ブロック会議⇒早期療育推進委員会との情報交換会	5日(水) 取組②の準備 19日(水) ブロック会議(事例検討会)		
取組②	予定	22日(木) 今年度の取組説明 (全ブロック共同開催)	19日(水) 事例選出 ⇒緊急事態宣言の為、6月16日に延期。	16日(水) 事例選出	14日(水) 事例検討等 たよりん(二宮)	18日(水) 事例検討等 つえの里(望月)		20日(水) 事例検討等 豊田ころもサポートセンター(岩松)		15日(水) 事例検討等 福祉センター(中村)		16日(水) 事例検討等 GHかりん(小島)	
	実績			事例を持ち寄り、検討事例の選出をする。 参加者23名	事例検討:8050問題 参加者:28名	事例検討:1人で抱えこまないように。 参加者:21名		事例検討:発達障がいのある方への支援 参加者:28名		事例検討:本人の希望がとて強い方への支援 参加者:23名			
取組③	予定			9日(水) 親の会との勉強会			15日(水) 中部南部合同研修 内容:講義+LIVE会議			保健師との勉強会 9日(木) 中部南部合同研修 内容:講義+LIVE会議			
	実績			9日(水) 親の会との勉強会 内容:個性の強い子どもを地域で支える会(デグチ氏) 参加者:21名			緊急事態宣言の為、12月9日に延期。		5日(金) 消防と福祉と医療の合同研修	保健師との勉強会⇒未実施 9日(木) 中部南部合同研修 内容:講義+LIVE会議 参加者:24名 10日(金) 消防と福祉と医療の合同研修			
備考欄	※ケースがあれば随時開催する。 ※取組③年2回消防と福祉と医療の合同研修の参加予定。												

メンバー	◎障がい者相談支援事業所福祉センター(中村)、障がい者相談支援事業所りんく(堀尾)、障がい者相談支援事業所オンリーワン(杉本,古川)、障がい者相談支援事業所ON(千葉)、障がい者相談支援事業所つえの里(丸山) その他:豊田ころもサポートセンター(岩松)
------	---

令和3年度 南部ブロック 事業計画書兼実績報告書

目的	障がい児者とその家族が望む暮らしを実現し、安心して暮らせる社会を目指す
目標	① 地域の困り事を把握し、解決する ② 相談支援員の支援力向上を図る ③ 他機関や地域と情報共有し連携の強化を図る
取組①	ブロック会議（地域課題の抽出・整理・提案） サポート会議・独自取組の企画、運営を行う 個別の困り事から地域課題を抽出し、整理・集約して課題整理部会に提案する
取組②	サポート連絡会（相談支援専門員の支援力向上） 指定特定相談支援事業所を含めた事例検討会と研修会を実施し、相談支援専門員のスキルアップと課題を表出する
取組③	独自の取組（課題解決に向けた活動） ① 指定特定を含めた相談支援事業所と他機関とのネットワーク作りの強化 ② 地域における障がい理解の周知

総括	事例検討会を行い、各ケースについて深めることができたとともに、課題を抽出することができた。事例検討会と研修会による相談員のスキルアップを図ることができた。多職種との連携強化や地域防災イベントへの参加はコロナ感染防止のため中止となった会もあるが可能な限り参加し、相談支援や障害理解の周知に取り組むことができた。地域校との情報交換会は学校側の年間スケジュールと合わず保護者対象の講演会に変更
今後の方向性	今年度の課題に対し、ブロックで取り組めることを企画・開催するとともに、事例検討、多職種との連携、相談員同士で困りごとを気軽に話し合える機会を持ち、スキルアップにつなげる

①自己評価	○	成果と課題 年間7回のブロック会議を開催し、南部ブロックの企画・運営を行うとともに、事例検討会から地域課題を抽出し、課題整理部会に提案することができた。事例の振り返りや課題に対し、充分検討する時間が足りなかった
②自己評価	○	成果と課題 年間計画通りに事例検討会を行うことができた。事例内容に合わせて関係機関の参加を呼びかけて様々な立場の意見を聞くことができ、相談員とのつながりを深めることができた。事例提供者は成果も得られるが負担も大きく、誰でも気軽に相談、検討でき、皆が共有できる検討会を目指したい
③自己評価	◎	成果と課題 他機関との連携研修でお互いの理解を深め、顔の見える関係を築くことができた。学校との情報交換会は年間スケジュールが合わずできなかったが、保護者対象の講演会として開催予定。防災啓発WGと連携を図り、地域の防災イベントに参加することで、より効果的に障がい理解の周知活動を行うことができた

自己評価 ◎期待を上回る ○期待どおり △期待をやや下回る ×期待を下回る

■スケジュール・実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組①	予定	・今年度計画の確認。 取組②③について詳細検討	(第1木曜) ・取組②③企画運営	(第1木曜) ・取組②③企画運営		・取組②③企画運営 ・課題抽出		・取組②③企画運営 ・課題抽出		・取組②③企画運営 ・課題抽出		・取組②③企画運営 ・課題抽出	
	実績	16日(金) メンバー顔合わせ。年間計画の確認と役割分担	6日(木) ZOOM 独自取組「リワークデイケア」打合せ 若林コミュニティ参加について。土橋地区防災参加について	3日(木) 独自取組「就労・生活支援センター、若者サポートステーション連携研修について中部ブロックと合同打合せ 事例検討会【ひきこもり支援】 事例検討【ひきこもり支援】 ひきこもりの男性の支援方法、母の距離が近く家族支援の必要性あり		5日(木) 9月事例検討会打合せ 7月事例検討後の確認 独自取組「若サボ合同研修」スケジュール確認 独自取組「学校連携」「市外事業所情報交換会」について 10日(火) 中部・南部で若サボ合同研修の打合せ		7日(木) 10月事例検討会打合せ コスモス川合氏参加 独自取組各担当決め 「市外事業所情報交換会」「支援級保護者対象講演会」「包括連携研修」		2日(木) 中部・南部合同研修打合せ 1月事例検討打合せ 独自取組（「市外事業所情報交換会」「支援級保護者対象講演会」）進捗状況確認			・取組②③企画運営 ・課題抽出 ・来年度取組検討
取組②	予定				1日(木) 事例検討会 ひかりの丘(勝田)		2日(木) 事例検討会 福祉センター(健吾)		4日(木) 事例検討会 みどりがおかコスモス(川合)		20日(木) 事例検討会 エボレ(堀尾)		事例検討会 ハートランド(国松)
	実績				1日(木) 参加者10名 本児と母、妹の家族全体の問題を把握、検討		2日(木) 参加者16名 発達障がい児の居場所づくり		4日(木) 参加者17名 聴覚障害者の孤独、手話相談員、特定の負担		20日(木) 参加者10名 心身に大きな波のある方の支援と地域との関わり		
取組③-①	予定			16日(水) リワークデイケア見学と情報交換会				12日(火) 9:30~11:30 消防との連携研修	8日(月) 9:30~11:30 消防との連携研修	9日(木) 10:00~12:00 中部・南部合同研修	27日(木) ZOOM 市外事業所との情報交換会	福祉・ケアマネ・包括との連携研修	
	実績			16日(水) 9名参加 衣ヶ原病院リワークデイケアを見学、情報交換				12日(火) 相談員5名参加 委託相談説明・事例グループワーク	8日(月) 相談員4名参加 委託相談説明・事例グループワーク	9日(木) 参加者24名 自己覚知とライブ支援者会議	27日(木) ZOOM 参加者15名 市外4事業所情報提供	コロナ感染状況により 来年度開催予定	
取組③-②	予定		8日(土) 清水団地防災フェスティバル	地域コミュニティ(若林福祉部)への障がい周知活動			地域の学校(教員対象)との情報交換会(+パルク豊田)						
	実績		8日(土) 清水団地防災フェスティバルに相談員3名、社協高岡1名参加	5日(土) 緊急事態宣言中のため 辞退			→2月特別支援級保護者対象講演会に変更(+就労・生活支援センター)					5日(土) 若林地区防災訓練 17日(木) 13:30~15:00 特別支援学級保護者対象講演会	
備考欄													

メンバー	◎障がい者相談支援事業所ハートランド豊田の杜(国松)、障がい者相談支援事業所ひかりの丘(勝田)、地域生活支援センターエボレ(堀尾)、障がい者相談支援事業所福祉センター(鈴木健吾)、その他:社協高岡 社協上郷
------	---

令和3年度 中山間ブロック 事業計画書兼実績報告書

目的	障がい児者が住み慣れた地域で自分らしく日常生活および社会生活を営むことができる支援体制を作る
目標	①地域の障がい福祉事業所のサポートと他機関とのネットワーク体制を構築する ②地域から個別課題を抽出し、地域課題として整理・集約して提案を行う ③研修会等に参加し相談支援専門員のスキルアップを図る
取組①	ブロック会議 ①会議の企画・運営を行う ②事例検討を行う事で地域課題を見つけ出すことが出来る。個別課題の解決アイデアを出すことが自立支援につながっていく
取組②	サポート連絡会 ①北部ブロックと合同で行い、勉強会や事例検討会に参加し、相談支援専門員のスキルアップを図る
取組③	中山間ブロックの独自の取組1（福祉教育）3か年計画 昨年（1年目）度実施した教員との意見交換会の意見の集約をし、今年（2年目）福祉教育の内容を検討。学校教員へのこういう事ができるという内容の提案と意見交換。来年（3年目）交流会の開催
	中山間ブロックの独自の取組2 障がい者の事業所利用者が地域のイベントなどに参加し障がい者の活動の場をつくる。地域に対して障がいの理解に対する啓発。コロナ禍でもできる事業所のPR

総括	スキルアップのため各ブロックの研修や勉強会に参加し、当事者を中心とした支援に繋げていった。また、困り事を皆で共有し話し合い、関係性を深める事が出来た。次年度は事例検討会の司会進行や板書を行い相談支援専門員として、更なるスキルアップや関係機関との連携を強化していきたい。
今後の方向性	次年度も各ブロックの研修等に参加し、中山間ブロックの現状に合わせて支援に取り組めるよう、関係機関と連携を取っていく。また当事者を中心とした支援を提案し、社会資源や地域特性を活かす事を重点的に考え、相談支援力の向上を図る

①自己評価	成果と課題 ○ 家族で孤立しているケースや中山間地域の課題（交通の問題以外）を共有し、検討し内容に応じて課題整理部に挙げていった。各事業所の個別の困り事を皆で相談できる場にし、解決できるようサポートを行ってきたい
②自己評価	成果と課題 ○ 相談支援技術を向上させるため各ブロックの研修等に参加した。アセスメント力、面談技術、インテークの取組技術等当事者を中心とした支援に繋げていった。今後も相談支援専門員の質の向上に向けて取り組む必要がある
③自己評価	成果と課題 ◎ コロナ禍でイベントが開催できない中、DVDを作成。豊田市内にあるB型事業所（パソナアニメーションスタジオ）に事業所PR動画の作成に関わってもらい、作り上げた。今後は障がいの理解に対する啓発を行うため、中山間の小中学校に配布し福祉教育に活かしてもらったり、地域交流のきっかけとして交流館や各イベントで上映するなどの取組を行ってきたい

自己評価 ◎期待を上回る ○期待どおり △期待をやや下回る ×期待を下回る

■スケジュール・実績

R4.2時点

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
取組①	予定		14日（金） コア会議 13:30～15:00	11日（金） コア会議 13:30～15:00	9日（金） コア会議 13:30～15:00	13日（金） コア会議 13:30～15:00 課題集約 13:30～15:00	10日（金） コア会議 13:30～15:00	8日（金） コア会議 13:30～15:00	12日（金） コア会議 13:30～15:00	10日（金） コア会議 13:30～15:00	14日（金） コア会議 13:30～15:00	18日（金） コア会議 13:30～15:00	10日（金） コア会議 13:30～15:00	
	実績		コロナの為中止	11日（金） 今年度の取組について再確認	9日（金） 地域イベントや福祉教育などへの参加内容を検討 事業所のPR動画を作る事とする	13日（金） 事業所のPR動画のスケジュールを決める 次回会議の打合せ	10日（金） 課題整理部会地域課題の集約シートの中山間ブロックの課題について話し合う 次回会議の打合せ	メンバーの都合がつかず中止	22日（月） 次回会議の内容検討	10日（金） 早期療育推進協議会 意見交換会	14日（金） 今年度の振り返り 次年度の取組内容について検討			
取組②	予定		19日（水） 10:00～12:00 事例検討	2日（水） 13:30～15:30 意思決定支援に関する研修	7日（水） 13:30～15:30 意思決定支援に関する研修	18日（水） 10:00～12:00 事例検討	8日（水）PM SDGsに関する研修	6日（水）PM SDGsに関する研修（講義）	17日（水） 10:00～12:00 事例検討	15日（水） 10:00～12:00 事例検討	19日（水） 10:00～12:00 事例検討の振り返り	16日（水） 10:00～12:00 次年度計画案の検討	16日（水） 10:00～12:00 次年度計画案の検討	
	実績		19日（水） ZOOMにて開催 事例検討について殿内氏より講義 光の家 川上氏の事例検討	2日（水） ZOOMにて開催2名参加 坂田氏より講義後、デモンストレーションを実施 16日（水） 事例検討会 サンアビリティーズにて開催3名参加 6月に開催された事例の検討を行う	7日（水） サンアビリティーズにて開催 3名参加 グループにより相談支援のロールプレイを実施 21日（水）サンアビリティーズにて開催 3名参加 足助まめだ館 久保氏の事例検討	18日（水） サンアビリティーズにて開催 3名参加 社協CSW福見氏の事例検討	8日（水） SDGs研修延期 日程の都合がつかず10/6（水）に変更 22日（水） ZOOMにて開催 3名参加 無門福祉会 殿内氏の事例検討	20日（水） サンアビリティーズにて開催 3名参加 SDGsに関する研修 参加者3名 20日（水） 光の家に開催4名参加 足助まめだ館 鈴木雄介氏の事例検討	24日（水） サンアビリティーズにて開催 3名参加 足助まめだ館 根本氏の事例検討	1日（水） サンアビリティーズにて開催 3名参加 今までの事例検討後の報告 防災訓練の報告	19日（水） サンアビリティーズにて開催 3名参加 光の家 渡辺氏の事例検討			
取組③	予定		27日（木） 昨年の振り返り 今年度の方針について 13:30～15:00		29日（木） 13:30～15:00 福祉教育の内容の検討		30日 13:30～15:00 福祉教育の内容の検討		25日（木） 13:30～15:00 福祉教育の内容の検討	23（木） 13:30～15:00 福祉教育の内容の検討	27日（木） 13:30～15:00 校長会での報告周知	24日（木） 13:30～15:00 役割分担等再確認	24日（木） 13:30～15:00 次年度計画について検討	
	実績		コロナの為中止		29日（木） 事業所のPR動画を作成検討 パソナアニメーションスタジオ豊田校に作成依頼 困り事等情報交換		30日（木） 各事業所の動画完成 編集作業に入る 困り事等情報交換 アイデア出し		25日（木） 動画作成の進捗報告 困り事等情報交換 ※取組①-②にあたる	23日（木） 動画作成の進捗報告 困り事等情報交換 畦道 影近氏の事例検討 意見交換 ※取組①-②にあたる	27日（木） 次年度計画について検討 意見交換 困り事等情報交換 ※取組①-②にあたる			
	予定			24日（木） 13:30～15:00 昨年度の振り返り 今年度の方針について		26日（木） 13:30～15:00 地域イベントへの参加内容の検討		9月未定 地域イベント参加		10月未定 地域イベント参加				24日（木） 13:30～15:00 次年度計画について検討
	実績			24日（木） 今年度の取組について再確認		26日（木） 動画依頼のためパソナアニメーションスタジオ豊田校に訪問。参加事業所決定		地域イベントはコロナの為中止		28日（木） 動画作成進捗報告 困り事等情報交換 意見交換 ※取組①-②にあたる				
備考欄	※福祉教育に関する学校へのアプローチは新型コロナウイルスの状況を判断しながら取組む。体験メニューの作成は実施。取組2については北部ブロックの事例検討会に参加する													
メンバー	障がい相談支援事業所足助まめだ館（◎久保、鈴木康祐、根本、鈴木雄介）、地域アドバイザー（阪田）													

令和3年度 課題整理部会 事業計画書兼実績報告書

目的	相談支援専門員等が地域の中で出会う課題を的確に集約し、課題の背景や地域の特性などを確認しながら、担当者会議において効率よく円滑な議論できるような準備を行っていくことを目的とする
目標	①個別課題の背景等を確認しながらいねいな課題集約を実施する ②相談支援専門員の抱えている課題を、課題整理部会に出しやすくするための仕組みを考える ③担当者会議にて円滑な話し合いが行えるように、プランの作成を行う
取組①	課題の集約・整理 課題解決のためのプラン作成 ・各ブロックから抽出された地域課題が地域特有の課題なのか、市全域の課題なのか等の明確化を行いながら集約し、優先順位をつけていく ・課題の背景等を共有していく
取組②	課題解決のためのプラン作成 ・担当者会議で議論を行うためのプランを作成し、担当者会議に提出する

総括	各ブロックより抽出された個別課題の検討を実施していくと同時に、昨年度の課題についても議論を行った。課題解決案の検討を進めていくにあたり、豊田市としての目指すべき相談員のあり方を共有することに重点を置きPTを発足し協議を図った
今後の方向性	各ブロックからの課題抽出について「あり方」を基本として整理を行うと同時に、各ブロックから個別課題・地域課題を抽出し検討するスケジュールの見直しを図る。また、地域課題解決に向けて研修の企画のみならず、多世代参加支援プロジェクトとの連携を強化していく

①自己評価	成果と課題
○	・各ブロックより抽出された課題にて多くあげられている相談員の支援力不足に関する課題について、豊田市として目指すべき相談員のあり方を共有していくことを最優先事項としPTを立ち上げ担当者会議にて共有 ・各ブロックからの課題抽出後にラフプランの策定を検討する時期が年末であるために時間がかかってしまう。次年度以降は緊急度など課題内容に応じて随時ラフプランの協議をして担当者会議へ提言を図る
②自己評価	成果と課題
◎	・課題の整理を行い、担当者会議にて議論がしやすいようにラフプランの作成を実施。ラフプランの作成にあたっては目的や期待される効果を明記した

自己評価 ◎期待を上回る ○期待どおり △期待をやや下回る ×期待を下回る

■スケジュール・実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組①	予定		5月14日(金) 年間スケジュールの確認 課題整理の手法について確認	6月11日(金) 前年度の課題取組検討	7月9日(金) 各ブロック間の情報共有	8月13日(金) 各ブロック間の情報共有	9月30日(木) 各ブロック課題の確認と次回会議の打合せ。	10月26日(火) 課題の整理	11月12日(金) 各ブロック間の情報共有		1月14日(金) 今年度の課題整理と次年度に向けた協議	2月4日(金) 来年度の計画作成	
	実績		5月14日コア会議 前年度の課題確認とスケジュールの確認	6月11日コア会議。相談員の支援力不足の課題より研修運用について協議。	7月9日コア会議 外国語問題による用語集の作成に着手。	中止	9月30日打合せ 主任相談支援専門員、圏域アドバイザー、部会長にて事前打ち合わせ実施	10月26日打合せ 主任相談支援専門員、圏域アドバイザー、部会長にて課題整理	11月12日コア会議 全体の課題より、次年度に取り組む課題について検討				
取組②	予定						9月10日(金) 課題整理と課題解決案の検討	10月8日(金) 課題の優先順位付プランの作成	11月26日(金) 担当者会議にプランを提出し、議論を行う	12月10日(金) 担当者会議に提出するラフプランの確認			
	実績						9月10日コア会議 各ブロックの進捗状況確認。ブロック会議での課題整理について協議	10月8日コア会議 集計した課題の整理。課題について協議	11月26日コア会議 次年度に取り組む課題について取組案を検討 ※ZOOM開催	12月10日コア会議 担当者会議にて報告するラフプランについて議論。			
備考欄													

メンバー	障がい相談支援事業所福祉センター(◎鈴木、中村)、障がい相談支援事業所むもん生活支援センター(阪田、殿内)、障がい相談支援事業所足助まめだ館(久保)、障がい相談支援事業所ハートランド(国松)、障がい相談支援事業所光の家(渡辺)、豊田市こども発達センター(横山)、障がい者就労・生活支援センター(山本)、豊田市障がい福祉課(水野、吉見)
-------------	---

課題整理部会「研修のあり方 PT」

1 背景

R2・3年度の課題整理部会にて「相談支援専門員の支援力不足」の課題があげられた。課題の取組案として研修会や勉強会の開催の案が挙げられていたが、目指すべき姿が確立されていないなかでは根本的な解決に至らないとの意見があがった。そのため、「豊田市として目指すべき相談員のあり方」を検討すべく PT を課題整理部会より発足し協議を行った。

2 目的

既存の研修や、新たな研修を企画するのではなく、「豊田市として目指すべき相談員のあり方」を全体に共有を図ることで獲得目標を明確にした研修の企画を行うことができるようにする。

3 構成メンバー

PT リーダー、圏域アドバイザー、主任相談支援専門員、課題整理部会長、担当者会議メンバー 2名

4 豊田市として目指すべき相談員の〈あり方〉

- ① **基本相談支援の理念と実際を理解し、当事者主体のケアマネジメントが行える人。**
- ② **豊田市の地域特性を考慮し、当事者の方が安心して暮らせるためにソーシャルワークの視点を持ちながら個別支援ができる人。**
- ③ **障がい者相談支援の価値と知識を理解し、地域共生社会の実現に向けて多職種・多分野と連携して地域づくりが行える人。**

※上記について9月より〈あり方〉について協議を図り、12月担当者会議にて共有を図った。

5 PT を通じての所感

- ・ PT を通じて獲得できたこと。

→『相談員の支援力不足』が課題だったが、相談業務の基礎的な部分、あるべき姿を理解し、豊田市の相談員が共通認識を持って対応することが課題解決の第一歩であると再認識できた。

- ・ 担当者会議で「あり方」を共有したことによる所感

→基礎的な内容であっても経験年数の長短、個人の見解によって受け取り方は様々であり共通認識を図るのには時間がかかる。

→あり方を考え方のベースにした上で個人の特徴を出せば良いと思うが、考え方や今までのやり方を変更するのは簡単なことでは無いために継続して検討を重ねていき、随時内容の協議をしていくべきであると考えている。

6 次年度に向けて

担当者会議にて共有された〈あり方〉を基にし、獲得目標が明確化された研修計画をたてていく。また、昨年度も実施された豊田市全体の相談員向けブロックオリエンテーションにて共有を図ることで豊田市全体の底上げを図る。また、担当者会議にて共有を図ったことによる所感にもあるとおり、継続した協議が必要であることから、次年度についても PT の継続が必須であると考えている。PT の活動内容として研修計画の企画のみならず、地域課題解決に向けて、重層的支援体制推進事業におけるよた多世代参加支援プロジェクトとも連携を図り、地域資源を活用した支援につなぐ。

ラフプランについて

R3年度の各ブロックより抽出された地域課題の整理を行った。そのうえで、R4年度に向けて取り組みを実施していく案を協議した。

ラフプラン作成にあたっての注意点は下記の6つである。

① 目指すべき姿

「誰もが安心して暮らすことのできる地域を目指した姿」

② 課題

「目指すべき姿にたどり着けない要因」

③ 現状

「個別支援からみえてきた地域の現状」

④ アイデア

「課題解決に向けて取組を期待していく案」

⑤ 取り組み内容

「次年度に向けて取組できる案」

⑥ 得られる効果

「課題解決に向けた取組内容の評価など」

目指すべき姿

研修のあり方PT参照

課題

相談支援員の支援力不足

<現状>

各ブロックからの課題として相談支援力不足があげられた。昨年度も同様の課題があげられており、自立支援協議会として「相談員のあり方」を共有することが大事であるとの協議がされ、PTを立ち上げ検討を開始した。質向上に向けた今後の課題解決としては「あり方」を共有した後に研修計画を検討していくことで実際的な取組を協議していくこととする（今年度の課題）

- ① 本人主体とした相談、気づきの支援が弱い
- ② 信頼関係の構築ができる相談員が少ない
- ③ 相談員のアセスメント能力が低い
- ④ 対面での面談拒否がある方への支援が弱い

<取組内容 (アイデア)>

- ① PT (プロジェクトチーム) の継続と増強 ⇒ 研修検討PTへ名称変更
 - ・ 主任相談支援専門員を核として豊田市の相談員の質向上を図る
 - ➡ メンバー: 各ブロックより1名 (各ブロックにて伝達が行えるようにするため)
- ② 研修計画の検討と企画
 - ・ あり方PTにて協議された「あり方」を共有した後に、R4年度の研修企画を行う
 - ➡ 面談技術のスキルアップ研修、アセスメント能力向上の研修
- ③ 足りていないスキルの調査
 - ・ 各ブロック会議での事例検討や情報交換会を通じて、学びたいスキルや知識などを収集して報告をする

<得られる効果>

- ・ 委託相談員全体で豊田市として目指すべき相談員のあり方を共有することによってブロック間によってバラツキのないスキルアップを図ることができるようになる
- ・ 豊田市の相談員同士で交流する機会を持つことで、課題の共有を行う
- ・ 他職種・他機関の役割を知る機会を持つことで、実際の支援において切れ目のない支援を行うことができる

目指すべき姿

安心して社会参加することのできる地域

課題

- ①社会参加を望んでいる当事者の居場所づくり
- ②引きこもりの方への相談支援力不足（面談技術）

<現状>

- ①引きこもり支援の専門的機関の役割など情報不足
- ②社会参加を望んでいる当事者が一歩目を踏み出すための居場所が少ない（社会参加の一歩目となる気軽に出かける居場所）
- ③面談拒否がある方への支援力が弱い。

<アイデア>

- ①豊田市における引きこもりの専門的支援機関の役割や支援方法の情報を知る。
- ②居場所づくり（引きこもりの課題を明確にしたうえでの検討）
 - ➡多世代参加支援プロジェクトとの連携した居場所づくりの検討
 - ➡福祉サービスに限らない社会資源の開発（各ブロックにて調査した地域資源の情報を共有していく）
- ③相談員の質向上の課題とリンクするため、研修検討PTでの協議を行う。

<取組内容>

- ①情報交換会の企画（企画と調整を担当者会議メンバーより2名選出）
 - ➡各専門機関との情報共有（設置目的や役割を知る）
 - ➡当事者との情報交換会の企画（引きこもりを経験した当事者より話しを何うことで適切な支援に繋げる）
 - ➡他市などの先進的に取り組まれている地域の情報を参考にする。
 - ➡引きこもりの実態調査（各機関が抱えている課題の共有する場の検討）
- ②相談員の質向上の課題とリンクするため、研修検討PTでの協議を行う。
 - ➡豊田市全体での面談技術向上の研修計画の導入と企画（インシデントプロセスなど）

<得られる効果>

- ①当事者の話しを聞くことで、求められる相談支援を知ることができる。
- ①引きこもり課題を共有する場を設けることで、課題を明確化していくことができる。
- ②面談力を向上することにより、対面に限らない相談において相談者との関係を築けるようになる。
- ③課題が明確化された後に求められる居場所づくりを検討することができる。（随時、多世代参加支援プロジェクトと連携した居場所づくりを実施していく）

目指すべき姿

移動手段・公共交通機関の整備がされた地域
～今ある公共交通機関が有効に使える地域～

課題

- ①地域によって交通機関の整備に差がある
- ②移動手段・公共交通機関の情報が不足している

<現状>

- ・車を持っていない方や免許がない方（家庭）が、必要な福祉サービスの利用を諦めたり、受診や相談に行くことが困難な現状がある
- ・市内の交通資源の情報が複雑であり、当事者の方に分かりにくい現状がある

<アイデア>

- ①移動手段に関するPTの設置
 - ・メンバーには、通園・通学バスがある機関、事業所職員等がメンバーとして加入し、各機関ができることの整理と共有。
 - ・困っている人の件数の調査。（地域特性を考慮）
 - ・既存の公共交通機関の情報を整理する。
- ②目的場所に行かなくても受けられるリモートサービスの検討、立ち上げ
 - ・オンラインで行えるリモート相談場所の検討

<取組内容>

- ①移動手段に関するPTの立ち上げ（担当者会議内メンバーより2名選出）
 - ・既存の交通機関に関する社会資源（足助たすけあいカー、上郷にこここバス等）を整理、一覧にして周知する
 - ・名鉄バス・おいでんバスの路線図を事業所近辺に絞った簡素的な路線図の作成
 - ・交通政策課との連携を検討する

<得られる効果>

- ・既存の取組や資源が周知され、自分で利用ができる人が増える
- ・既存の交通機関を有効に利用・周知した後に見えてくる地域課題を整理することができる。

目指すべき姿

適切な児童福祉サービスの利用

課題

サービス利用にあたって相談員のアセスメントが後追いになっているケースがある

<現状>

- ①児童の福祉サービスの利用が決まってから相談支援事業所に計画作成の依頼がある事が増えている。
→その為、相談支援事業所は後追いで利用者と出会う事になり、困り事解決がサービスありきとなっている
- ②新規事業所が増えており利用希望者が増加している。一方で、サービス利用の流れや相談員との連携に関して知識が十分でない場合もある。

<アイデア等>

- ①豊田市心身障がい児早期療育推進委員会との連携を検討する
- ②豊田市内の小児科医療機関（小児科のみ16か所、他の診察科併設だと48か所）へ委託パンフレットを用いて、相談支援事業所の周知啓発。
- ③年度末に開催されている事業所説明会にて、相談支援事業所の役割を伝達し、サービス提供事業所との連携強化する。

<取組内容>

- ①発達センター主催の放課後等デイサービス事業所向け研修にてサービス利用における相談員との連携について説明（案）
- ②関係諸団体との定期的な意見交換会の実施
- ③事業所説明会にて障がい福祉課よりサービス利用の申請にあたり相談員のアセスメントが必要になってくることの説明
- ④豊田市相談員全体のブロックオリエンテーションにて相談員に対しても周知啓発活動の実施

<得られる効果>

- ・事業所と相談員が連携を強化することで、サービス利用に向けて点ではなく面での支援が行える。
- ・各機関との意見交換を通じて、児童の課題について整理することができる。

令和3年度 担当者会議 実績報告書

1 目的

各ブロック、部会、WGから挙げられた課題を、把握・協議・検討をし、当事者が住み慣れた地域で自立した生活を営むことができる支援の基盤構築をする。

2 取組状況

令和2年度に課題整理部会から抽出された「相談支援専門員の支援力不足」という課題を解決するために、各ブロックで行う人材育成に向けた研修のほかに、主任相談支援専門員を中心に、担当者会議において研修を企画し、実施した。

相談支援専門員の質の向上

★目的
相談支援専門員の相談支援力のスキルアップを図る。



★実施した研修

○インシデントプロセスを用いた相談支援研修

【目的】 委託、特定相談支援専門員が当事者の自己解決力を高めるための相談スキルを高める研修
【参加者】 12名
【考察】 日ごろの支援の中で出てきた当事者の自己解決力に向けた支援力と相談支援技術の向上（基本に必要なため）継続して行うことが必要

○全ブロックオリエンテーション

【目的】 豊田市自立支援協議会と各ブロックの活動を知ってもらうことで、より良い支援体制を築き、市全体の相談支援業務がより充実し、障がいのある方が安心して暮らせる地域を目指す
【参加者】 24名
【考察】 日ごろの業務に関する相談が安心してできるなど意見あり、次年度以降も実施していくことが必要である。また、相談支援専門員が気軽に相談できる関係性につながった。

○意思決定支援研修

【目的】 支援者の相談技術のスキルアップを図る。支援の基本となる知識や姿勢を身に付ける
【参加者】 35名
【考察】 参加することで支援者一人一人の相談における支援の癖を見つけることができるためより良い支援力の向上が考えられる。

○初任者研修フォローアップ研修

【目的】 相談支援従事者初任者研修で学んだことを振り返り、日頃の相談支援に対する相談支援力の獲得をする。また、地域づくりとその核となる（自立支援協議会）協議会の役割と機能を理解する。
【参加者】 12名
【考察】 研修終了後、時期を見ながら相談支援初任者研修で習ったことを振り返り、相談支援技術の必要性を繰り返し学ぶことで、落ち着いた相談支援ができるので今後も継続して行う。

以下の項目についても随時実施

- ・地域生活支援拠点等の整備にかかる検討
- ・セルフプランの活用に向けた検討
- ・日中サービス支援型共同生活援助の事業評価について
- ・SDGsから当事者主体の思念を考える研修
- ・豊田市地域自立支援協議会・豊田市心身障がい児早期療育推進委員会との情報交換会
- ・消防と福祉の合同研修

3 総括

相談支援専門員の質の向上は、研修に参加したことにより、「日頃の業務に関する相談ができる関係づくりのきっかけになった」、「本人主体の支援を行う基本が改めて学べて相談支援技術の向上に繋がった」等の意見があったと共に、今後、相談支援専門員に対する「豊田市の目指すべき相談員の在り方」が確立されていないという課題が挙がり、年度途中に「研修のあり方PT」を発足し、共有を図った。

コロナ渦で、各種の取組にも制限や内容、スケジュール等の変更もあったが、対策方法を協議しながら計画的に実施し、豊田市の相談支援専門員のスキルアップや整備体制の取組ができている。

4 今後の方向性

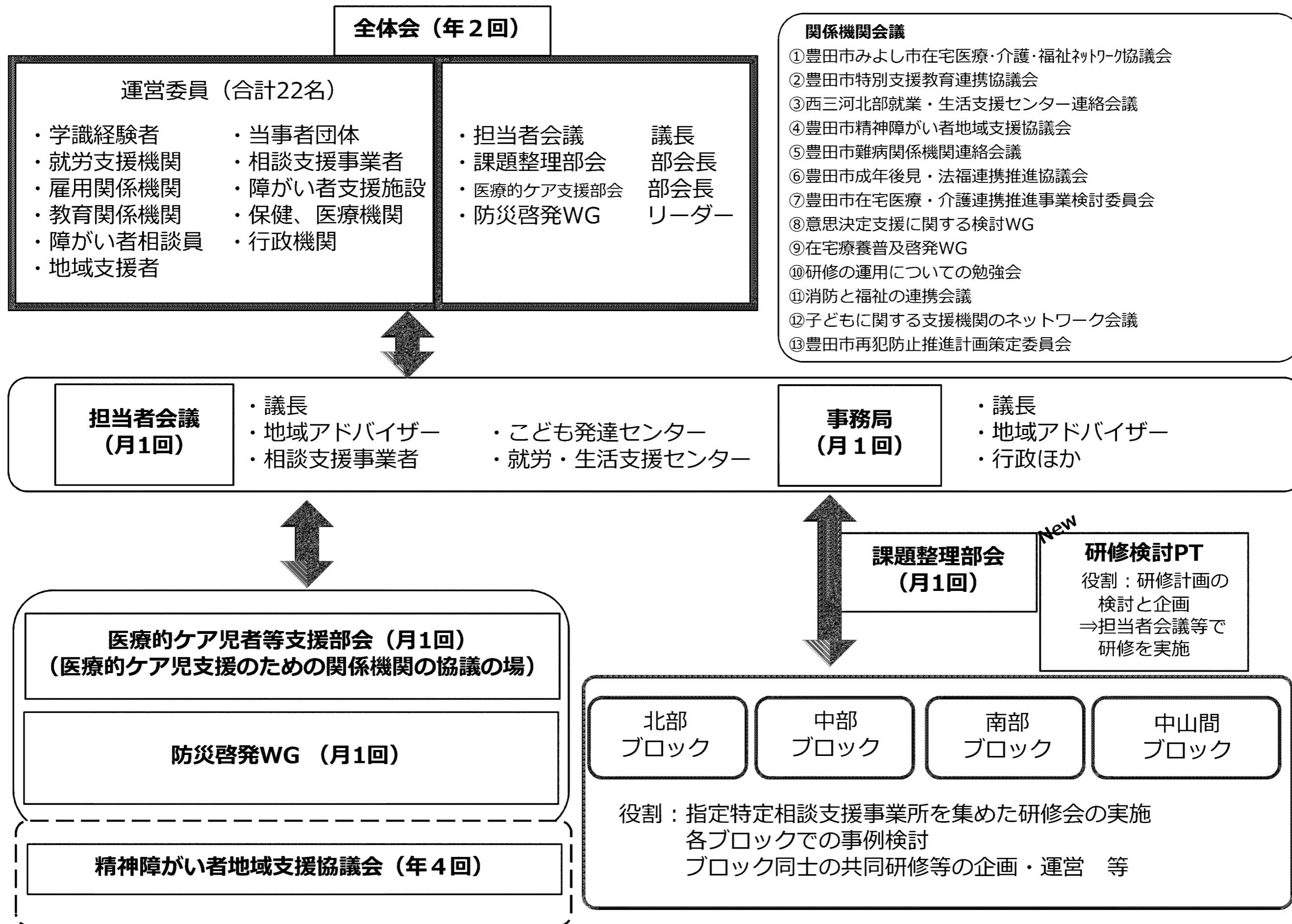
令和3年度途中に立ち上げた「研修のあり方PT」を令和4年度から「研修検討PT」とし、全体の研修計画の検討と企画を行い、豊田市全体の相談支援力の向上を目指していく。

また課題整理部会から令和3年度の課題として4つ挙げられている

- (1) 相談支援専門員の支援力不足
- (2) ①社会参加を望んでいる当事者の居場所づくり②引きこもりの方への相談支援力不足
*重層的支援体制の推進の参加支援事業にあたる。
- (3) ①地域によって交通機関の整備がされた地域②移動手段・公共交通機関の情報不足
- (4) サービス利用にあたって相談員のアセスメントが後追いになっているケースがある。

これらの課題についても、担当者会議内でチームを発足し、迅速かつ適正に課題解決について、協議・検討を行い、当事者が住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるために、地域の資源も活用しながら社会参加ができるよう支援する。

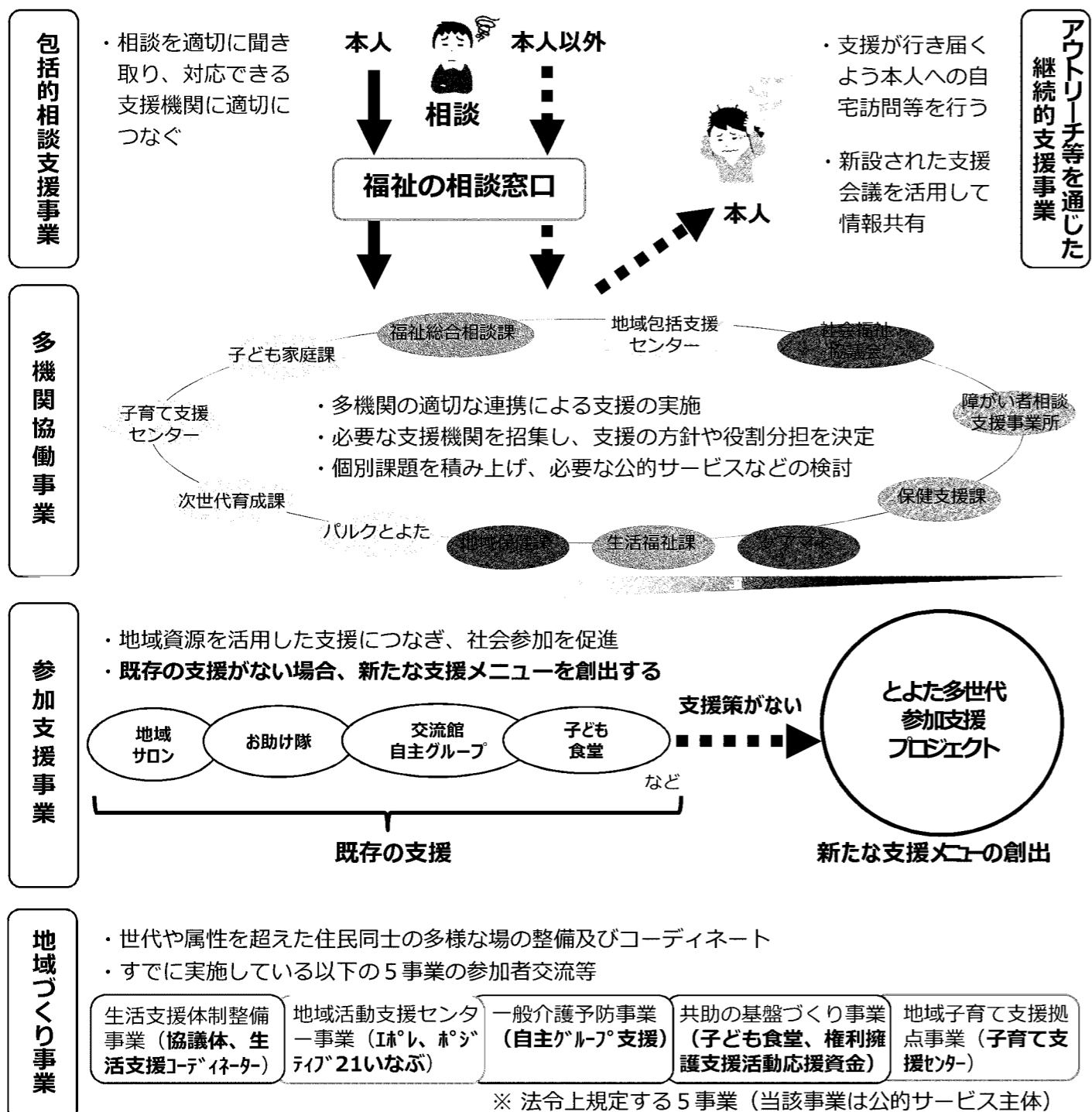
令和4年度 豊田市地域自立支援協議会の新体制（案）



1 重層的支援体制推進事業について

- 従来の属性別の支援体制では対応が困難な事例が増加している。
- ⇒国は、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する市町村の包括的な支援体制の構築を目的として令和2年6月に社会福祉法を改正し、重層的支援体制整備事業を創設。令和3年4月から施行。
- ⇒手上げ式の事業実施で、全国42自治体が令和3年4月から実施。
(愛知県では豊田市、岡崎市、長久手市、東海市、大府市の5市が実施)
- ⇒本市は平成29年度からモデル事業実施を進めており、全国に先駆けて体制の整備が進んでいることから、「整備事業」ではなく、「推進事業」と独自の呼称を使用。

2 重層的支援体制推進事業 本市の基本的な流れ



3 複合化・複雑化する困りごとについて

これまでの取組における課題

⇒相談件数のうち(図表1)、約3割が複雑化・複合化した課題に対する相談で、そのうち半数程度は対応するサービス等がなく、支援機関の把握による見守りにとどまっている(令和2年度を除く)

図表1 相談実績(平成29年度～令和2年度)

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
相談件数	702件	541件	553件	2,010件
備考	福祉総合相談課・健康と福祉の相談窓口(高岡)の開設	健康と福祉の相談窓口(猿投)の開設		旧市内5支所に福祉の相談窓口開設、新型コロナウイルスによる生活困窮相談の急増

— 複雑化・複合化した主な相談事例 —

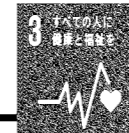
- ・80代の親と50代の無職の子ども世帯。
- ・息子は20年ほど無職で親の年金で生活。障がい者疑いだが病院の受診は拒否。
- ・親は息子のことや今後の生活費の心配から適切なサービス利用を諦めている。

解決のためには・・・

- 多機関協働による早期支援が必須
- 行政の仕組みだけでは対応が困難であり、民間事業所それぞれの取組の活用が必須

重層事業の取組事例

- ①包括的相談支援事業
⇒Ex:障がいを持つ子の親から、世帯の生活困窮について相談支援事業所に相談があり、社会福祉協議会を紹介し、困りごとへの支援が進んだ。
- ②アウトリーチ等を通じた継続的支援事業
⇒Ex:精神疾患がある両親からの相談を受け、発達障がい疑いのあるひきこもりの子の生活の立て直しについて、支援会議を開催し、複数の支援機関と支援方針について合意形成し、本人へのアプローチを実施中。
- ③参加支援事業
⇒任意ではあるが、とよた多世代参加支援プロジェクトに加入いただき、他分野との連携や取組の情報共有を推進。【プロジェクト加盟数：40事業所のうち障がい分野13事業所】
- ④地域づくり事業
⇒Ex:相談支援事業所や社会福祉協議会CSWが中心になり、庭の草取りなど高齢者の困りごとを障がい者が支援する活動を逢妻中学校区で実践。



1 条例の経緯

- ・2021年3月「豊田市地域共生社会の実現に向けた相互理解の促進及び意思疎通の円滑化に関する条例」(略称：**相互理解と意思疎通に関する条例**)を制定し、同年4月から施行
- ・条例で示す内容を総合的かつ計画的に推進していくために、条例に基づく行動計画である「**相互理解と意思疎通に関する行動計画**」を条例に合わせ、同年4月から施行
(※ 条例の主旨から所管課変更 障がい福祉課 ⇒ 行政改革推進課)

2 市役所における事業の推進

(1) 意思疎通に関するガイドラインの運用・見直し

ユニバーサル市役所「とよた」ガイドラインの改定(令和3年11月実施)

内容：条例の主旨に基づき「要配慮者が自分の意思を伝えられる豊田市」「誰一人取り残さずに情報を伝える豊田市」の実現を目指し、職員一人ひとりが実施者となって取り組んでいくための要配慮者への配慮の基準を見直し。

改定に当たって、障がい者計画推進懇話会委員に意見聴取意見を反映し、ガイドラインを作成



(2) 職員の要配慮者への理解促進・学習会等の実施

- ア 朝礼における手話の実施(障がい福祉課)(写真有)
- 実施期間 令和3年12月1日～令和3年12月28日(前回○実施期間 令和3年6月1日～令和3年7月2日)



【朝礼における手話の実施】

イ 庁内研修

■カラーユニバーサルデザイン研修(写真有)

- 実施日 令和3年12月8日(水)
- 講師 人にやさしい色づかいをすすめる会 富永氏
- 参加者 会場43名 WEB15名 計58名
- ※愛知県カラーユニバーサルデザイン普及キャラバン隊事業の派遣活用



【カラーユニバーサルデザイン研修】

ウ 課内出張研修(市民課)講師等

- 実施日 令和3年11月17日
- ※各所属の自主的な取組により、条例の理解促進が加速

(3) 配慮のある窓口、分かりやすい文書・様式の推進

全庁の窓口「筆談マーク」を設置(令和3年12月)
全650枚、190以上の所属及び交流館等に配布



3 市(全体)における事業の推進

(1) 条例の啓発資料の作成・情報発信(令和4年1月末時点)

- ・ポスター(作成370部 配布済396部)※再利用含む
- ・パンフレット(作成1万部 配布済7736部)



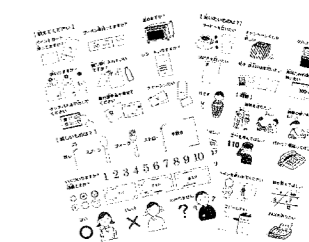
【図書館でのブース展示 関連本貸出】

特別啓発(連携)

- 豊田市中央図書館3階(関連本の紹介)(写真有)
令和3年12月4日～令和3年12月26日
(前回：豊田市福祉センター1階(社会福祉協議会))
- 特色のある学校づくり事業(浄水小) 令和3年7月※4日間

(2) 意思疎通支援ツールの検討(民間窓口等)

- ・コミュニケーション支援ボード(コンビニ版)の作成
 - 内容 (株)セブンイレブンジャパンと連携し、コンビニで使用できるコミュニケーション支援ボード案を作成
 - 展開 当事者等の意見を踏まえつつ、市内店舗への展開を検討



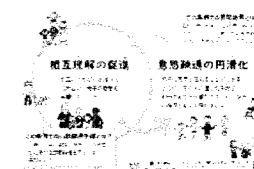
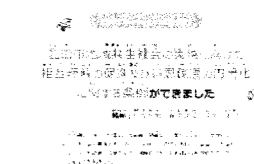
(3) 市民・事業者向け体験講座等の実施

- ・体験！手話教室の実施
 - 実施日 令和4年1月23日(日) <聞こえない講師：信夫 利衣子氏>
 - 場所 豊田市中央図書館 <聞こえる講師：伊藤 久代氏>



(4) 高校生・大学生に対する理解啓発

- ア 高校(豊田・杜若)総合学習における相互理解と意思疎通
- 内容 総合の時間において高校生(自分たち)にできる取組を考察
- イ 大学等連携を活用した条例の理解促進
- 内容 愛知学泉、県立芸術、愛知工業、中京、日本赤十字豊田看護大学、豊田工業高等専門学校に条例ポスター及びチラシを配布
- ウ 大学生発「福祉橋プロジェクト」支援
- 実施日 調整中
 - 主催 豊田広域ローターアクトクラブ



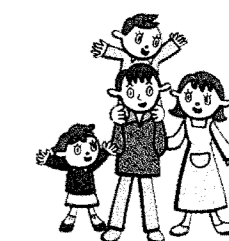
4 今後の予定

(1) 市民・事業者向け条例説明及びガイドラインの検討

商工会等と連携し、差別解消法の改正説明と併せて条例の理解促進
※令和3年度予定 商業関係説明(2月)、旧町村6商工会説明(3月)

(2) 児童・生徒に対する理解啓発

社会福祉協議会による、小中高等学校での「障がいを理解するための実践教室」の継続実施
「WE LOVE とよた教育プログラム推進委員会」(教育委員会)において、相互理解と意思疎通に関する条例に係る教育事業の検討



I 強度行動障がい支援施策

強度行動障がいとは

精神的な診断として定義される群とは異なり、直接的他がい（噛み付き、頭突き等）や、間接的他がい（睡眠の乱れ、同一性の保持等）、自傷行為等が通常考えられない頻度と形式で出現し、その養育環境では著しく処遇の困難な者であり、行動的に定義される群。

家庭にあって通常の育て方をし、かなりの養育努力があっても著しい処遇困難が持続している状態。

出典：行動障害児（者）研究会（平成元年）

豊田市における強度行動障がい者

強度行動障がいは単なる障がいの名称ではなく、複合的な要因による障がいの状態を指すものであるため、正確な人数は示せないが、「行動関連項目（平成18年厚生労働省告示543号）」で合計得点が10点以上の者は、463名である。（令和3年4月1日時点）

支援事業実績

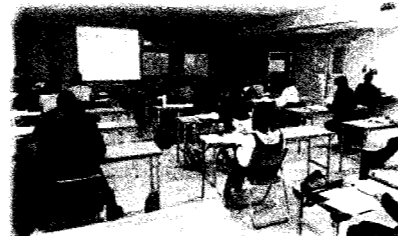
1 強度行動障がい支援者養成研修基礎研修（法定研修）

日程：令和3年11月18日（木）、19日（金）

受講者：15名

主催：豊田市、豊田市福祉事業団

研修の様子（座学）



（1）募集状況等

募集期間：令和3年10月12日（火）から令和3年10月22日（金）まで

市内全事業所、関連病院、（豊田、三好、瀬戸つばき）特別支援学校、自立支援協議会

定員15名（応募者25名（1.66倍）のため抽選）

（2）研修内容

- ・「理解できた」以上が**98%**であり、講義も好評
- ・豊田市独自（医療的視点、健康と食事、家族の声）を実施し、研修に厚みが増した。

（3）次年度の予定（令和4年度）

基礎研修：7月下旬

実践研修：10月下旬（令和4年度からの新規事業）

2 強度行動障がい者専門支援員派遣事業

（1）訪問型研修事業

件数：1件（サンホーム豊田）

令和4年1月19日（水）13時30分～15時00分

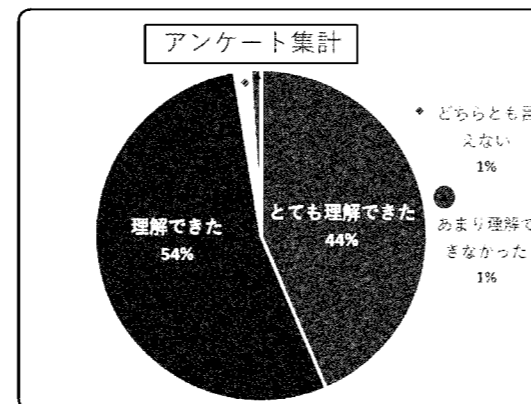
（2）訪問型個別支援事業

件数：3件（無門福祉会1件、サンホーム豊田2件）

3 強度行動障がい支援検討会

（1）令和3年度 第1回（通算8回目） 開催日：令和3年7月1日（木）

（2）令和3年度 第2回（通算9回目） 開催日：令和4年2月3日（木）予定



II 地域生活支援拠点等の運営

地域生活支援拠点等とは

障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能（①相談、②緊急時の受入れ・対応、③体験の機会・場、④専門的人材の確保・養成、⑤地域の体制づくり）を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障がい者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築すること。

出典：厚生労働省「地域生活支援拠点等について」（平成30年3月）

地域生活支援拠点等の支援施策

①相談機能

- 緊急時対応が必要なハイリスクの対象者について、事前に把握・登録 ※令和3年12月末現在 **14名**
 - ・委託相談事業所等が対象者を抽出し、自立支援協議会を通して選定
 - ・対象者を選定後、豊田みよしケアネット※を活用し、情報共有
 - ⇒複数の対応者における状況把握・共有が容易となり、円滑な支援体制を構築
 - （※ 強固なセキュリティ環境下で、医療・介護・福祉従事者が利用者の情報を共有できるネットワーク）

- 障がい者支援施設と連携し、夜間・休日における緊急時の連絡体制を確保

②緊急時の受入れ・対応

- 夜間・休日において急を要する場合は、障がい者支援施設で一時受入れする体制を確保

③体験の機会・場

- グループホームにおいて、地域生活の体験の機会を調整
- ※ グループホームの体験利用数25名 R3.4～11の支給決定者数

④専門的人材の確保・養成

- 自立支援協議会や豊田市福祉事業団等と連携し、ニーズに応じた人材育成策を実施

主な研修

○強度行動障がい支援者養成研修 受講者15名

○医療的ケア児者等支援部会研修 受講者97名

○喀痰吸引等研修 受講者16名

○相談支援専門員の質の向上研修（以下、内訳）

・インシデントプロセス研修 受講者12名

※相談員が当事者の自己解決力を高めるための相談スキルを身につけるための研修

・全ブロックオリエンテーション 受講者24名

※困難事例等の解決のために、相談員が連携できるようにするための研修

・意思決定支援研修 受講者35名

※当事者の意思を的確に引き出せる相談支援スキルを身につけるための研修

SDGsから当事者主体の支援を考える研修 受講者28名

※当事者主体の支援を行うために、相談員が地域課題に気づき、今後の支援に活かすための研修

初任者研修フォローアップ研修 受講者12名（2回目は3月実施予定のため、1回目の人数）

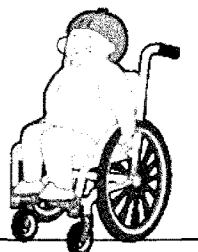
※初任者研修受講者が、基本的知識を定着し、実務に活かすことができるようにするための研修

野中式事例検討会 実施中

※当事者の見立てを深めて、本人主体の支援ができるようにするための研修

⑤地域の体制づくり

- 自立支援協議会において地域課題を把握・整理する仕組みを構築



1 背景

- ・国は、平成16年9月に「精神保健医療福祉の改革ビジョン」を示し、「入院医療中心から地域生活中心へ」という理念を定義した。
- ・平成29年2月にまとめられた「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会報告書」では、「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」が新たな施策として掲げられ、「入院医療中心から地域生活中心」の政策理念をより強力に推進することが提示された。

2 精神障がいに対応した地域包括ケアシステムとは

精神障がい者が地域の一員として、安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合い、教育が包括的に確保されたシステムを指す。

3 市の取組概要

- ・令和元年度に、保健・医療・福祉等関係者の協議の場として、「豊田市精神障がい者地域支援協議会」を設置
- ・令和2年度は、地域の課題特性、あるべき姿（地域ビジョン）の共有、精神障がい者の地域移行・地域定着の推進に必要な取組のロードマップを作成
- ・今年度は、多機関連携支援体制図の完成、重点取組内容の具体化
- ・取組について、PDCAサイクルを踏まえながら業務遂行

【豊田市精神障がい者地域支援協議会】

年度	協議内容
R2	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域のあるべき姿」の設定 ・“誰もが尊重し合い、安心して自分らしく暮らす”を支えるまち とよた ・「入院中から退院後の生活を支える体制」の強化に向けた重点取組の設定 <ul style="list-style-type: none"> ◆重点取組1：支援体制に必要な仕組みづくり ◇重点取組2：支援体制に必要な地域アセスメントの実施
R3	<ul style="list-style-type: none"> ・支援に必要な「支援者」や「居場所」等の「社会資源の活用」に焦点 <ul style="list-style-type: none"> ◆重点取組1：支援体制の見える化（支援の試行と評価視点の整理） ◇重点取組2：充実した支援体制を推進するための調査内容の検討

【参加機関】…13機関

豊田加茂医師会、豊田加茂薬剤師会、精神科を標榜する病院、西三河北部圏地域アドバイザー、豊田市自立支援協議会、豊田市基幹包括支援センター、豊田市地域活動支援センター、障がい者就労・生活支援センター、豊田地域精神障害者家族会、ピアサポーター、愛知県豊田警察署、愛知県精神保健福祉センター、愛知県衣浦東部保健所

4 主な関連事業

(1) 豊田市措置入院者退院後の支援事業

	令和2年度	令和3年度(12月末時点)
実施者/対象者(人)	8/13	6/6
実施率(%)	61.5	100

(2) 地域活動支援センター事業

	令和2年度	令和3年度(9月以降)
設置数(箇所)	1	2